「よい子　強い子　伊丹の子」

伊丹っ子

～未来につながる　きずなの学校～

学校だより　№５
令和　8年　6月　15日
伊丹市立伊丹小学校
校長　植松　俊二

梅雨の合間に見える晴れ間が、子どもたちの表情をいっそう明るくしてくれる季節になりました。学習や生活の場面では、友だちと協力したり、意見を伝え合ったりする姿が多く見られています。

今号では、「小学生のうちにぜひ身につけてほしい3つの言葉」についてお話しします。 それは、「ごめんね」「いいよ」「ありがとう」の三つです。

「ごめんね」「いいよ」「ありがとう」がつくる、あたたかな学校

● 「ごめんね」―関係を守る勇気

自分の行動を振り返り、相手の気持ちを尊重する言葉です。 小さなすれ違いも、この一言があることで大きなトラブルに発展しにくくなります。「失敗してもやり直せる」という安心感を子どもに与えてくれる言葉でもあります。

● 「いいよ」―相手を受け入れる優しさ

謝ってきた相手を再び仲間として迎え入れる言葉です。 許される経験は、子どもたちの自己肯定感を育て、次の一歩を踏み出す力になります。

● 「ありがとう」―関係を育てる温かさ

相手の行動や思いやりを認め、価値づける言葉です。「誰かの役に立てた」という実感は、子どもたちの意欲や自信につながります。

三つの言葉が循環する学校へ

「ごめんね」と言える勇気、「いいよ」と受け止める優しさ、「ありがとう」と伝える温かさ。 どれも短く、日常の中で自然に使われる言葉ですが、子どもたちの人間関係を支える大切な力をもっています。

この三つが自然に行き交うと、子どもたちの間に信頼と安心の循環が生まれます。学校としても、日々の指導や学級づくりの中で、この言葉の大切さを丁寧に伝えていきたいと考えています。

ご家庭でも、ぜひ子どもたちとの会話の中で、これらの言葉が生きる場面を見つけていただければ幸いです。学校と家庭が同じ方向を向くことで、子どもたちの成長はより確かなものになります。

学校 HP 随時更新中